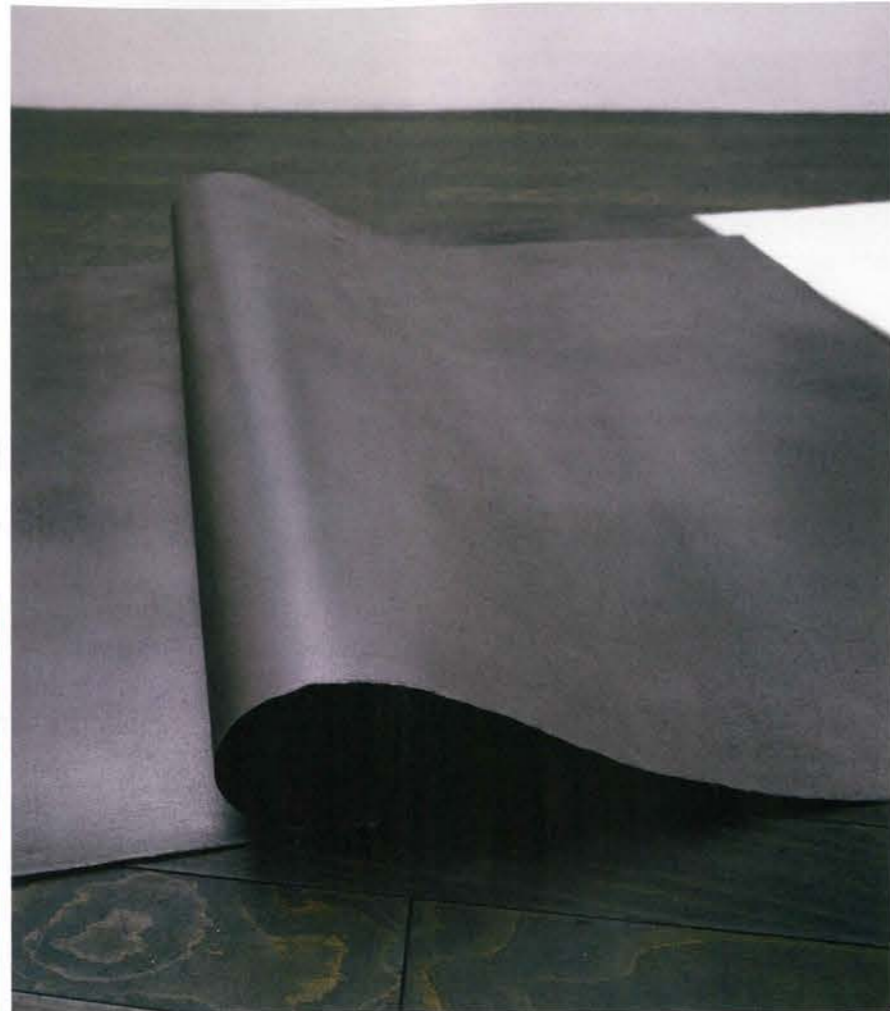


[右]《DRAWING床(1)》 1983年
鉛筆、紙 113.0×260.0cm
[左上]《27-5-14》 2015年
アクリリック、合板 91.0×91.0cm
右頁は本作の部分
[左下]《15-E-16》 2004年
油彩、カンヴァス・紙
48.5×32.5cm



にすると、その気が遠くなるほどの作業にまで思いが至ってしまう。《DRAWING床(1)》「右」のように、遠目には鉛板とも見まがう作品も生まれた。

90年代からはカッターナイフやペラなどが画材になる。絵具を塗り重ねた画面をそれらで引つ掻くことで異なる色彩の線を抽出するこのシリーズは、曲線群が散らばる作品から始まり、やがて《15-E-16》「左下」のように細い引つ掻き線が集積した緻密な作品に幅を広げる。緻密といえば、2000年代に登場する点描画シリーズもまた繊細を極める。筆を使わず、ペインティング・ナイフの先端で無数の点を画面に配しているのだ。さらに近年、支持体とする合板を彫刻刀で彫るといった新たな手法に着手「右頁、左上」。彫った支持体に着色を施し、剥がして再び上塗りする——そんな作業が延々と繰り返される。一連の引つ掻く絵画の進化形といったところか。

浜田の旺盛な探求心は、こうして表現に反映されつづけてきた。今展では版画や油彩など約30点をおして変遷のおもしろさを紹介する。開催に先立ち、ホームページで制作への思いが語られる動画も公開。また会期中、画家自身が登壇するトークイベントも開催され、より作品の深部に触れられる。



— 加島美術の愛でる愉しみ —

表現の変遷に見る 浜田浄の挑戦

芸術新潮
特別企画

中世、近世の書画を中心に近現代の作品まで広く扱う加島美術がこのたび注目するのは、浜田浄。先ごろ練馬区立美術館で開催された個展が「浜田浄の軌跡—重ねる、削る、絵画」(終了)と題されたように、彼の作品には絵具の層を重ねる、引つ掻く、支持体を削るなどの手法が顕著だ。またその表現は時代ごとに変容を遂げてきた。ここで変遷を駆け足で追ってみよう。

浜田が多摩美術大学に入学したのは1957年。具体美術協会が注目されていた頃である。だが反芸術という新潮流に作風が傾くことはなかったようだ。大学を卒業して本格的に活動を始めるも、60年代は模索の時代だった。明らかに個性が芽生えるのは70年代に入ってからで、画面中央のぼんやりと明るい部分が外に向かって灰色がかかったグラデーションをなして消えていく作品を発表。このミニマルで静謐な世界観は現在に至るまで通底している。次に登場したのは真つ黒の地にすつと色の線が数本走るシリーズ。ほどなく浜田は版画に着手するのだが、黒地+色の線条というスタイルは版画にも踏襲された。

80年代に入ると鉛筆によるドローイング作品を手がけるようになる。丹念に塗りつぶされた画面を目の前



浜田浄 はまだ・きん

1937年、高知県生まれ。1961年、多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業。「クラコフ国際版画ビエンナーレ」クラコフ国立美術館賞、「現代日本美術展」東京国立近代美術館賞など国内外で受賞多数。パブリックコレクションは東京国立近代美術館、東京都現代美術館、ブリチストン美術館ほか多数。

Exhibition

浜田浄展 0の祈り

会期 ● 3月5日～20日(会期中無休)
観覧料 ● 無料

オープニングレセプション

日時 3月4日18:00～

トークイベント

日時 3月5日14:00～

会場 加島美術

登壇者 浜田浄、笹木繁男(現代美術資料センター主宰)

※事前申込不要

Information

加島美術

住所 ● 東京都中央区京橋3-3-2

電話番号 ● 03-3276-0700

開館時間 ● 10:00～18:00

休館日 ● 日曜、祝日

アクセス ● 東京メトロ銀座線「京橋」駅より徒歩1分、東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅より徒歩2分、都営浅草線「宝町」駅より徒歩5分、JR「東京」駅八重洲南口より徒歩6分

URL ● www.kashima-arts.co.jp

